

数字を見せらる。反之、最低は極西部の二・八人都市の多いニューイングランド地方は三・七人となつてゐる。尙、超過移入人口五千萬は人口百に付〇・四人の割合となる。

一九三〇年以降の人口動勢中特記すべきものは都市膨脹の緩慢化せることで、一九二〇—三〇年間に八百九十萬、三二・四%を増加した人口十萬以上の大都市人口は三〇—四〇年間に僅かに百五十萬、四・二%の増加をしか示してゐず、反之、其の他の人口は右大都市人口の増加率を超えるに到つてゐる(二〇—三〇年間に大都市人口の三二・四%増に對し其の他の人口増は一〇・四%、三〇—四〇年間に前者の四・二%に對し後者は八・二%)。前世紀末以降の人口十萬以上大都市人口の増勢の跡を示せば次の如くである。

年	大都市人口増加率 (百分比)	大都市人口の増加率 (百分比)	大都市人口の増加率 (百分比)
一八九〇年	—	—	一五・四
一九〇〇年	二〇・七	四六・五	一八・八
一九一〇年	二一・〇	四二・九	二二・一
一九二〇年	一四・九	三五・一	二六・〇
一九三〇年	一六・一(1)	三三・四(1)	二九・六
一九四〇年	七・〇	四・二	二八・八

(1)調査施行日(一九三〇年は四月一日、一九二〇年は一月一日)の相違を無視す。

右大都市人口の人口増勢緩慢化は大都市への人口集中が緩慢化されたにも依るが、併し近郊都市が猶ほ市域化されない爲の影響も見逃せない(サンフランシスコ及クリーブランド等)。直接に人口減を示してゐるのはシカゴ以下三十市、人口増の六十二市は概して交通及娯樂の中心地か乃至は軍需工業地が多い。

人口百萬以上の世界都市 (埋め直)

(1) 大ニューヨーク市	一九三・七一	二、〇〇〇千	(21) メキシコ	一九四〇・三・六	一、四七七
(2) ニューヨーク市	一九四〇・四・一	七、三六〇	(22) バルセロナ	一九四〇・一・一	一、五九九
(3) ロンドン市	一九三六・六・三〇	八、七〇〇	(23) カイロ	一九三六・六・三〇	一、三三九
(4) 東京	一九三六・六・三〇	四、〇六三	(24) ロンドン	一九四〇・一・一	一、三三七
(5) 大パリ市	一九四〇・二・一	六、七九	(25) ワルシャワ	一九四〇・六・一	一、三〇七
(6) パリ市	一九三六・三・八	四、九六三	(26) 天津	一九三六	一、二九三
(7) ベルリン	一九三六・三・八	二、八三〇	(27) シドニー	一九三七・三・三	一、一六〇
(8) モスクバ	一九三六・三・七	四、三三九	(28) マイランド	一九四〇・一・一	一、一三三
(9) 上海	一九三六	四、一三七	(29) 名古屋	一九四〇・一・一	一、一三六
(10) シカゴ	一九四〇・四・一	三、四八六	(30) マドリッド	一九四〇・一・一	一、一三六
(11) 大阪	一九四〇・二・一	三、三六五	(31) サンパウロ	一九三七・一・一	一、一六六
(12) レニングラード	一九三六・一・七	三、三三三	(32) ボンベイ	一九三〇	一、一六六
(13) ペノスアイレス	一九三六・一・一	三、二九一	(33) 京都	一九四〇・一・一	一、二〇〇
(14) ウィーン	一九三六・一・一	二、五〇三	(34) グラスゴ	一九三六・一・一	一、一三三
(15) フィラデルフィア	一九三六・一・一	二、八三〇	(35) 廣東	一九三六	一、一三三
(16) リオデジャネイロ	一九三七・一・一	二、七五	(36) パーミンガム	一九三六・一・一	一、一三三
(17) ハンブルグ	一九三六・一・一	二、七三	(37) メルボルン	一九三七・一・一	一、一〇九
(18) デトロイト	一九三六・一・一	二、六二	(38) 南	一九三六	一、一〇九
(19) 北	一九三六	一、五五	(39) 大モントルオル	一九三〇	一、〇〇〇
(20) 大ブタペスト	一九四〇・一・一	一、五八	モントルオル市	一九三〇	八九
(21) ブタペスト市	一九四〇・一・一	一、二六			
(22) ロサンゼルス	一九四〇・四・一	一、四九七			
(23) 大カルカタ	一九三〇	一、四八六			
(24) カルカタ市	一九三〇	一、三二			

(1)メトロポリタン地区 (2)近郊を含むロンドン (3)セーヌ區

なほ右三十九の世界都市の人口總計は九千三百萬で、世界人口の四・三%を含んでをり、三十九市中十五市は歐洲に、十一市はアジアに、十市は米洲に、二市は濠洲に、一市はアフリカ洲に屬することになる。

(獨逸統計局の集計になるものを一部補正)